※　応援団登録していただいた方には郵便又はメールでお届けしています。

令和２年１０月発行

広尾っ子応援団だより (No.29)

広尾っ子応援団本部事務局（教育委員会社会教育課）電話 01558-2-0181

地域の声を聞き、地域と共有した

重点教育目標を目指す授業

各学校は、学校運営協議会で承認された教育課程を確実に実施するため、**重点教材**を定めて実践しています。

単元名　したことや言ったことから、登場人物の考えを読もう　（豊似小２年国語）

教　材　わにのおじいさんのたからもの　　授業者　八太先生、髙木先生

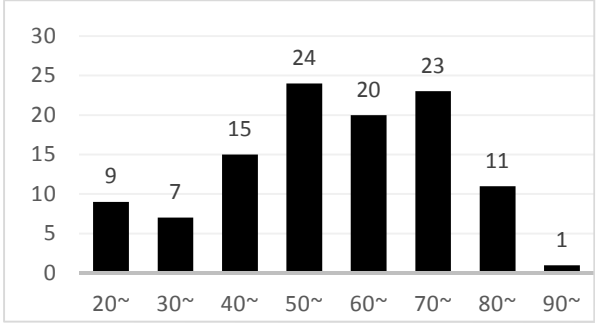
豊似小学校は、本年度の重点教育目標を実現するため、学校として、国語科の指導を改善しようとしています。先生は、単元に「手紙を書く活動」や「話し合い活動」を取り入れ、子どもたちが目的をもって学習を進めることができるように工夫されていました。

広尾町役場管理職全員が広尾っ子応援団員に

「広尾っ子応援団を全庁的なものに！」という本部の呼びかけに、村瀬町長始め理事者・管理職の皆さんが応えて下さいました。これにより、広尾っ子応援団登録者数は100 名を超えることになりました。

この背景には、広尾町まちづくり推進総合計画（原案）や、並行して策定作業が進められている生涯学習推進計画（原案）で、「コミュニティ・スクールの推進」や「広尾っ子応援団本部の取組」が随所に取り上げられていることがあります。

【広尾っ子応援団の年齢分布】



注：年齢は登録時

広尾高校で学校運営協議会開催

９月３０日（水）ＣＳ指定後初となる学校運営協議会が開催されました。小島校長の挨拶に続いて、相馬教務部長、八太生徒指導部長、中本進路指導部長から教育活動の説明を受け、その後「熟議」を行いました。高校での指定は北海道全体で２０校とのことです。

熟議「生徒の実態について」（一部を掲載）

- 挨拶がしっかりできて礼儀正しい
- 真面目、誠実に取り組む、責任感がある
- とがったり、とびぬけたりする生徒はいない
- コミュニケーションの力が不足している
- 高校の先生を信頼し、頼りにしている
- 広尾高校で学んでいることを誇りに思っている
- 高校生活では甘えが許されないと考えている
- 仲間や他者に合わせる傾向がある
- 自発的な家庭学習が少ないのは心配である
- 自分のよさに気付けない生徒が多い

委員名（名簿順、敬称略）

熊谷隆正　佐藤真由美　大庭克彦
髙松直美　寺田弘文　高橋正幸
渡辺將人　岸田成司　山岸直宏

【実態について交流した「熟議」】

道徳授業の補助教材に「応援メッセージ」☆広尾小１年

横断歩道での出来事が書かれた「応援メッセージ」（前号に掲載）が、道徳の授業で使われました。指導を行った菅野先生に、その様子を紹介していただきました。

【教科書に載っている読み物資料】

気持ちを込めた挨拶の大切さを知り、自分から進んで人に明るく接しようとする心情を育てることをねらいとして授業を行いました。

横断歩道を渡る主人公役と運転手役に分かれて即興的な演技を行い、譲り合ったりお辞儀をしたりした場合としなかった場合の気持ちを振り返りました。

その結果、

「言わなくても、ありがとうの気持ちが伝わったんだね。」

「運転手さんは、譲ってあげてよかったって思っているんじゃないかな。」

「どっちもいい気持ちになったね。」

と、言葉でなくても気持ちを込めれば動作だけでも伝わることに気が付いたようでした。

授業の後半に地域の方からのお手紙として「応援メッセージ」を紹介すると、子どもたちからは「それ、〇〇ちゃんとわたしのことだ！」「ぼくも譲ってもらったことがあるよ。」「よくあるね、こういうこと。」という声。

身近なこととして捉えることができたので、学校や家庭以外でも挨拶をしている場面を思い出し、「学校からの帰り道、知らない人に『こんにちは』が言えてうれしかったです。」「学校に来るときと帰るときに、すごく大きな道路で、よく車が止まってくれているから、『ありがとうございます』って言います。」などと、今までの自分を振り返ることができました。